

無菌治療部

1. スタッフ（平成27年4月1日現在）

部長（教授）	神田 善伸（兼）
医員（教授）	室井 一男（兼）
	森本 哲（兼）
（講師）	鈴木 隆浩（兼）
	大嶺 謙（兼）
病棟医長	藤原慎一郎（兼）
	翁 家 国（兼）
	佐藤 一也（兼）
（助教）	岡塚貴世志（兼）
	蘆澤 正弘（兼）
	早瀬 朋美（兼）
	翁 由紀子（兼）
病院助教	畑野かおる（兼）
	川原 勇太（兼）
	新島 瞳（兼）
シニアレジデント	6名

2. 診療部の特徴

平成16（2004）年9月に本館4階南病棟として開棟し、平成22年4月14日付で骨髓移植推進財団に無菌治療部／血液科と小児科の単一診療科認定を受け、「無菌治療部」として承認された。平成26年9月で10周年を迎えた。

当部は、血液科、輸血・細胞移植部、小児科の医師から構成されている。無菌治療室管理加算1を満たすISOクラス5清浄度の病室4床とISOクラス7清浄度の病室4床を有し、高度な無菌管理が必要な患者であればどの診療科も利用できる中央施設部門である。

急性白血病、骨髓異形成症候群、悪性リンパ腫等の難治性血液疾患に対する造血幹細胞移植を中心に、長期の骨髓抑制で好中球500/ μ L未満の持続や免疫不全状態のため易感染状態にある患者を入室適応としている。

・認定施設

- 非血縁者間骨髓移植認定施設
- 非血縁者間末梢血幹細胞移植認定施設
- 非血縁者間臍帯血移植認定施設
- 非血縁者間骨髓採取認定施設
- 非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設

・造血細胞移植学会造血細胞移植認定医

神田 善伸
室井 一男
森本 哲

3. 診療実績

1) 入院患者数（移植種類別）

		* 括弧内は小児科
年間総数（平成26年）	48件	
血縁骨髓移植	1件	
非血縁骨髓移植	12件	
血縁末梢血幹細胞移植	5件	
非血縁末梢血幹細胞移植	2件	
臍帯血移植	10件（2件）	
自家末梢血幹細胞移植	18件（6件）	

過去（平成26年12月まで）の造血幹細胞移植総数は468件を数える。骨髓バンクを介した非血縁者間骨髓移植総数は、当院第一例から平成26年12月までで163件となった。また、臍帯血バンクを介した非血縁者間臍帯血移植総数は平成26年12月までで61件となった。年間毎の全移植数（同種移植数）は、平成22年が30（27）、平成23年が28（25）、平成24年が27（21）と、30件前後で推移していたが、平成25年は43（33）件、平成26年は46（30）件と移植件数の増加を認めている。同種移植および自家移植ともに移植件数の増加を認めている。造血幹細胞移植法の多様化に伴い新しい移植法の導入を試みている。平成26年4月非血縁者間末梢血幹細胞移植施設に認定され、非血縁者間末梢血幹細胞移植2件を施行した。また、平成26年にはHLA不適合血縁者間移植3件を施行した。

対象疾患内訳（平成26年）

		* 括弧内は小児科
急性骨髓性白血病	17件	
慢性骨髓性白血病	1件	
急性リンパ性白血病	6件（1件）	
骨髓異形成症候群	3件	
悪性リンパ腫	12件	
多発性骨髓腫	2件	
神経芽細胞腫	1件（1件）	
脳腫瘍	6件（6件）	

2) 治療成績

骨髓移植推進財団が解析（2002年1月～2006年12月）した移植認定診療科ごとの非血縁者間骨髓移植成績で、当院は、初回非血縁者間骨髓移植後1年生存率が72.5%（リスクグループ5段階中4、予想生存率61.9%）で全国平均の63.7%を上回る成績であった。

2007年1月から2014年12月まで間に実施された初

回成人同種造血幹細胞移植148件において、全体では1年生存率69.1%、5年生存率49%、急性骨髄性白血病（AML）71件では、1年生存率62.9%、5年生存率45.5%、急性リンパ性白血病（ALL）27件では、1年生存率68.3%、3年生存率34.5%、骨髄異形成症候群（MDS）25件では、1年生存率70%、5年生存率49.4%であった。

3) バンクドナー骨髄採取数

バンクドナー骨髄採取11件（12月現在で過去148件）を担当した。

造血幹細胞提供前のバンクドナーの確認検査57件、最終同意8件を担当した。

4. 事業計画・来年の目標等

平成25年9月頃より、同種移植後患者を対象としたLTFU外来発足の準備を始めた。平成26年3月よりLTFU外来を開設し、看護スタッフと協力し同種移植後患者の晩期障害管理の向上と更なるQOLの改善に取り組んでいる。

現在、栃木県において、非血縁者間骨髄移植、非血縁者間末梢血幹細胞移植および非血縁者間臍帯血移植の認定施設は、当院と独協医科大学附属病院の2施設しかない。年々、造血幹細胞移植適応が拡大していることや開棟以来ISOクラス5清浄度の病室4床とISOクラス7清浄度の病室4床の合計8床のみでの運用となっており、徐々に需要に供給が追い付かない状態となっている。平成27年には4階西病棟4人床室の2室をISOクラス7清浄度の無菌治療室に改修を計画している。

2014年9月から自治医科大学附属さいたま医療センター血液科との兼任として神田善伸氏が部長に就任した。自治医科大学附属さいたま医療センター血液科や関東造血細胞移植共同研究グループとも連携し、臨床研究を通じて造血幹細胞移植診療におけるエビデンスの確立に取り組んでいく予定である。

当部が参加している主な臨床研究

- ・低用量アレムツズマブを用いた進行期造血器腫瘍に対するHLA不一致同種造血幹細胞移植の有効性の検討
- ・GVHD予防法に抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリンを用いたGVH方向HLA一抗原不適合血縁者からの造血幹細胞移植療法の多施設共同第II相試験
- ・未治療症候性多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、シクロホスファミド、デキサメタゾンによる導入療法、自家末梢血幹細胞移植療法およびレナリドミドによる地固め療法・維持療法に関する有効性と安全性の検討
- ・多発性骨髄腫に対する同種造血幹細胞移植後のレナリドミドを用いた維持療法の安全性の検討
- ・再生不良性貧血に対する低用量抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリンを用いた同種造血幹細胞移植療法の有効性と

安全性の検討

- ・高齢者造血器腫瘍に対するフルダラビン・全身放射線照射を前処置とした同種移植療法